

巻頭言

こころのバリアフリー

「相模原市の障害者支援施設における事件の検証及び再発防止策検討チーム」の報告書が公表された。報告書は、(1) 共生社会の推進に向けた取組、(2) 退院後の医療等の継続支援の実施のために必要な対応、(3) 措置入院中の診療内容の充実、(4) 関係機関等の協力の推進、(5) 社会福祉施設等における対応、の5点に分けて、再発防止策の方向性をとりまとめている。

このうち、「(1) 共生社会の推進に向けた取組」について、本協議会のこれまでの活動と関連させて述べてみたい。報告書の再発防止策の方向性には、平成28年4月に施行された障害者差別解消法の理念等を周知・啓発していくこと、学校教育をはじめとするあらゆる場における「心のバリアフリー」の取組を充実させること、障害者の地域移行や地域生活の支援をこれまで以上に進めていくことが挙げられている。

本協議会は各都道府県協会間の連絡を図り、もって精神保健福祉の普及発展に資することを目的として設置された。そして精神保健福祉の啓発は重要な課題であることから、平成28年度の重点課題のひとつとして、外部資金の獲得によるアートをとおしての精神保健の啓発推進の検討を行うこととした。外部資金の獲得については努力しているところであるが、これが順調に進んだ場合は、上記の報告書にある「心のバリアフリー」の取組につながる企画にしたいと考える。

本年10月13日に群馬県高崎市で開催された第64回精神保健福祉全国大会のテーマは「誰にでもできることがある社会の実現に向けて」とされ、本協議会は「相模原の事件から学ぶことー地域社会のグリーフとしてー」と題してパネル展示を行った。グリーフを経験することは悲しいことであるが、ひとと社会への理解を深め、発展させるちからにもきつとなると信じている。

パネルの文章は上智大学グリーフケア研究所の協力を得た。またパネルの絵はこころの苦しみを経験した方々の作品による。

展示に使用したパネルは本協議会のホームページにアップしたのでぜひご覧いただきたいし、各都道府県協会の行事等においても活用されることを願っている。

平成29年1月

全国精神保健福祉連絡協議会
会長 竹島 正